

MENU **SEARCH** **INDEX** **DETAIL** **JAPANESE**

1 / 1

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-020274

(43)Date of publication of application : 29.01.1993

(51)Int.Cl.

G06F 15/02
G06F 15/403

(21)Application number : 03-169629

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 10.07.1991

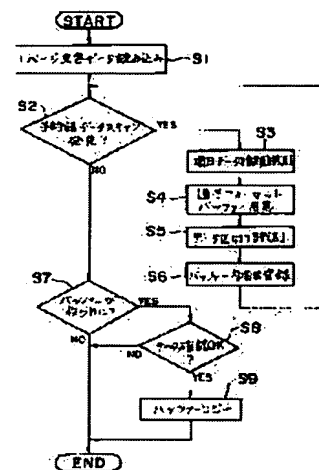
(72)Inventor : MORI SHIGEKI
MATSUBAYASHI KAZUHIRO
TANAKA ATSUSHI
TATSUMI EISAKU

(54) ELECTRONIC INFORMATION EQUIPMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To input the information of different formats with a simple operation.

CONSTITUTION: Character and code data for one picture are read out in a step S1 and whether the inputted data are reserved word data or not is successively scanned in a step S2. When the data are reserved words, the proper format and item of the data are identified in a step S3 and a buffer having the proper format is prepared based upon the identified results in step S4. Then a step S5 identifies the division of character string data started from the reserved word and a step S6 registers the character string data in the item of the buffer with the proper format. When there is no reserved word, a step 7 judges whether a buffer is formed or not, and when the buffer is formed, a step S8 checks data in the buffer. When the data are OK, a step S9 copies the data of the buffer to the mode area of the format.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 10.07.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 26.05.2003

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-20274

(43)公開日 平成5年(1993)1月29日

(51)Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/02
15/403

識別記号

3 5 5 Z

庁内整理番号

9194-5L
7060-5L

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2(全7頁)

(21)出願番号 特願平3-169629

(22)出願日 平成3年(1991)7月10日

(71)出願人 000001007

キャノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 森 重樹

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キャ
ノン株式会社内

(72)発明者 松林 一弘

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キャ
ノン株式会社内

(72)発明者 田中 淳

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キャ
ノン株式会社内

(74)代理人 弁理士 大塚 康德 (外1名)

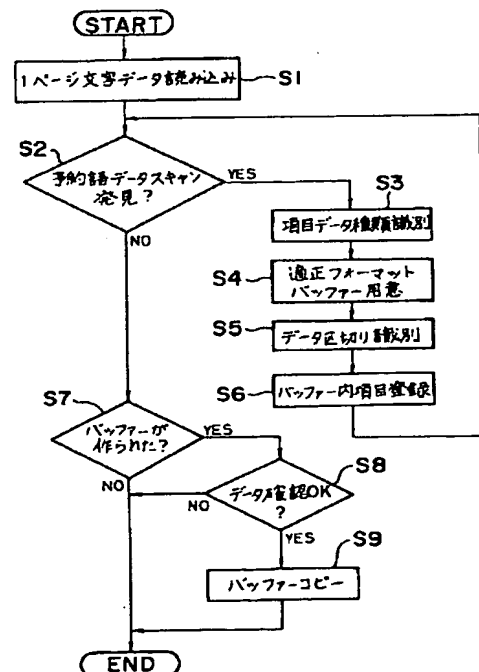
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 電子情報機器

(57)【要約】

【目的】簡単な操作で、異なるフォーマットの情報を入力する。

【構成】ステップS1で一画面分の文字及び記号データを読み込み、ステップS2で予約語データか否かを順次スキャンする。予約語であれば、ステップS3でそのデータの適正なフォーマット及び適正な項目を識別し、ステップS4でその結果から適正なフォーマットを持つバッファを準備する。次に、ステップS5で予約語から始まる文字列データの区切りを識別し、ステップS6で文字列データを適正なフォーマットのバッファ内の項目に登録する。一方、予約語がなければ、ステップS7でバッファが作成されたか判定し、作成された場合、ステップS8でバッファ内のデータを確認する。ここで、データがOKであれば、ステップS9でバッファ内のデータをそのフォーマットのモード領域に複写する。



【特許請求の範囲】

【請求項１】 情報入力のための複数のフォーマットを有し、各フォーマットに対応する特定の情報を入力可能な電子情報機器において、フォーマットを特定する識別子を含む情報を入力する入力手段と、該入力手段よりの情報に基づいて前記識別子を検出する検出手段と、該検出手段で検出された識別子に応じて特定の情報を抽出する抽出手段と、該抽出手段で抽出された特定の情報を対応する各フォーマットのデータとして登録する登録手段とを備える事を特徴とする電子情報機器。

【請求項２】 前記複数のフォーマットのデータを相互に関連付ける手段を更に備える事を特徴とする請求項１に記載の電子情報機器。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】 本発明は電子情報機器、特にメモ帳、アドレス帳、スケジュール帳等の異なる複数のモードあるいはページを持ち、それぞれに異なる表示あるいは入力のためのフォーマットを有する電子情報機器に関するものである。

【０００２】

【従来の技術】 従来、電子手帳や電子ノートに代表される電子情報機器は、データ入力を行いたいメモ帳、アドレス帳、スケジュール帳等の異なるフォーマット画面を有するモードあるいはページを選択して表示器に表示させる為の入力画面切換手段と、上記フォーマット画面中の入力したい項目を指示する項目指示手段と、該項目に入力すべきデータを入力する為のデータ入力手段とから構成されている。

【０００３】

【発明が解決しようとしている課題】 しかしながら、上記従来例では、電話番号、名前、住所、期日、及び要件等の入力項目を整理して、情報として活用する為には、例えば名前、住所、及び電話番号はアドレス帳のフォーマット画面に、また期日や要件はスケジュール画面にと、それぞれ目的に合った項目に正しく入力が行われなくてはならず、日常最も他用される様々な項目が混合するメモ情報等を入力する際には、次の様な欠点が存在する。

(１) メモ情報の入力終了後の見直し、あるいは切り貼り操作による適正項目への再入力が必要であった。

(２) 適正なフォーマット画面に順次切り換えながら入力を行う場合、別モードや別ページへのそのつどの切り換え操作や各フォーマット画面への関連づけ操作が必要であった。

【０００４】 本発明は、上記課題を解決するために成されたもので、簡単な操作で、異なるフォーマットの情報

を入力できる電子情報機器を提供することを目的とする。

【０００５】

【課題を解決するための手段】 及び

【作用】 上記目的を達成するために、本発明の電子情報機器は以下の構成を備える。

【０００６】 すなわち、情報入力のための複数のフォーマットを有し、各フォーマットに対応する特定の情報を入力可能な電子情報機器において、フォーマットを特定する識別子を含む情報を入力する入力手段と、該入力手段よりの情報に基づいて前記識別子を検出する検出手段と、該検出手段で検出された識別子に応じて特定の情報を抽出する抽出手段と、該抽出手段で抽出された特定の情報を対応する各フォーマットのデータとして登録する登録手段とを備える。

【０００７】 また好ましくは、前記複数のフォーマットのデータを相互に関連付ける手段を更に備える事を特徴とする。

【０００８】

【実施例】 以下、図面を参照して本発明に係る好適な一実施例を詳細に説明する。

【０００９】 図１は、本発明の特徴を最も良く表す自動項目入力ルーチンのフローチャートである。また図２は、図１の自動項目入力ルーチンが搭載された電子情報機器の構成を示す概略ブロック図である。

【００１０】 図２において、１０はデジタイザ、１１はスタイラスペン、１２はデジタイザとスタイラスペンを用いた座標検出装置、１３は座標検出装置からの座標データに基づいて認識を行う文字記号認識装置、１４は認識されたデータの処理を行う演算処理装置、１５は各種データ及びプログラムを格納する記憶装置、そして、１６は表示装置であるＬＣＤ、１７を駆動するドライバ装置である。

【００１１】 以上の構成において、デジタイザ１０とＬＣＤ１７は一体に構成されており、スタイラスペン１１によってデジタイザ１０に入力された筆跡が、座標検出装置１２にて座標データとして検出される。検出された座標データは、文字記号認識装置１３にて文字又は記号として認識される。そして、認識された文字又は記号は、演算処理装置１４にて対応する活字フォントに変換され、表示ドライバ装置１６を介してＬＣＤ１７の入力を行った場所と同一の位置に表示される。

【００１２】 従って、本装置では、記憶装置１５に格納された様々なアプリケーションプログラムにより、紙に文字を書く容量で情報の入力を行い、入力された情報を整理する事でメモ帳やアドレス帳又はスケジュール帳等の種々のフォーマットを持つ表示モード（メモ帳モード、アドレス帳モード）に対応している。ここで、メモ帳モードとは、メモ帳モードのメモ領域において自由な位置に自由な文字や記号を筆記可能なモードであり、ア

ドレス帳モードとは、個人の名前や住所電話番号及び備考等の項目が入力でき、電話番号リスト表示や名前による電話番号の検索等アドレス帳フォーマットによる情報の活用が出来るモードである。

【0013】次に、本実施例における自動項目入力ルーチンを図1に示すフローチャートに従って以下に説明する。尚、自動項目入力ルーチンは、メモ帳モードの一面面が終了する際、あるいは必要に応じて起動されるプログラムである。

【0014】まず、ステップS1において、一面面に表示された文字及び記号データを読み込み、続くステップS2では、読み込んだデータを順次スキャンし、予め登録された予約語であるか否かを判定する。その結果、予約語が検出された場合には、ステップS3へ処理を進め、そのデータの適正なフォーマット及び適正な項目を識別する。そして、ステップS4では、識別した結果から適正なフォーマットを持つバッファを準備し、次のステップS5では、予約語から始まる文字列データの区切りを識別する。次に、ステップ6では、上述の区切られた文字列データをステップS4で用意した適正なフォーマットのバッファの中の適正な項目の中に登録し、この登録処理が終了すると上述のステップS2へ処理を戻す。

【0015】一方、ステップS2において、予約語が発見できなかった際には、ステップS7へ処理を進め、バッファが作成されたか否かを判定する。ここで、作成された場合には、ステップS8へ処理を進め、バッファ内に登録されたデータの確認を行う。その結果、データがOKであればステップS9へ処理を進め、バッファ内のデータをそのフォーマットを使用しているモード領域に複写を行ってデータを追加し、自動項目入力ルーチンを終了する。また、上述のステップS7において、バッファが作成されなかったと判定された場合には、自動項目入力ルーチンを終了する。

【0016】次に、上述した自動項目入力ルーチンの具体的な動作について図3及び図4を参照して以下に説明する。

【0017】図3は、メモ帳モードの入力例を示す図である。図において、19は本実施例における電子情報機器の表示画面、20は外装部分に設けられたメニューボタン、21は現在のモードを示すモードバー、22はアドレス帳フォーマットの名前項目を示す予約語「NA」、23は同様にアドレス帳フォーマットの電話番号項目を示す予約語「TEL」、24は予約語「NA」22に前置されたデータ部分、25は予約語「TEL」23に前置されたデータ部分、そして、26は予約語「NA」22に対応するデータの区切りを示す予約語「氏」である。

【0018】図4は、上述した自動項目入力ルーチンのステップS8において、データ確認を行う画面であり、

図において、31はメッセージを表示するメッセージバー、32は操作者の意思を入力する為のアイコンスイッチボタン、33はアドレス帳フォーマット画面の名前項目の表示位置、そして、34は同様に電話番号項目の表示位置を表す。

【0019】ここで、図2における入出力画面に、図3に示すメモ帳画面の入力が行われたとする。同画面では、打ち合せ等の結果まとめられた日付データ、時間データ、名前データ、電話番号データ、用件データ等が自由な位置にあたかも紙にメモを取るが如く並んでいる。また、名前データ24の前には、予約語「NA」22が前置されている。そして、名前データ24の終りには、名前データの終りを示す予約語「氏」26が後置されている。また同様に電話番号データ25の前には、電話番号データの前置を示す予約語「TEL」23が前置されている。

【0020】図3の画面において、入力操作が終了し、メニューボタン20が押圧されると、メニューを表示し、メモ画面の終了が選択された場合、上述した自動項目入力ルーチンが起動される。まず、ステップS1において、図3の画面に表示されている文字データが一本のストリームデータとして読み込まれ、次のステップS2では、ストリームデータの先頭、つまり図3の表示画面の左上から右に向かって順次スキャンが行われる。そして、第1行目のスキャンが終了すると、第2行目のスキャンが始まり、同様に第3行目のスキャンに入ると、まず予約語「NA」22が検出され、ステップS3に分岐する。ステップS3では、予約語「NA」22がアドレス帳フォーマットの名前項目のデータを前置する予約語である事を識別する。ステップS4では、ステップS3で判定した適正フォーマットであるアドレス帳フォーマットの画面フォーマットをバッファとして用意する。

【0021】次に、ステップS5において、予約語「NA」22に続くデータ部分をサーチし、名前項目データ24の終了を示す区切り点を検出する。この場合、名前項目データの終了を意味する予約語「氏」26を検出すると、それ以前のデータ部を名前項目データとする。ステップS6では、ステップS5で得た名前項目データ24をステップS4で用意したアドレス帳フォーマットのバッファ上の名前項目格納位置34にコピーする。そして、図3のストリームデータの続きをスキャンする為に再度ステップS2へ戻り、図3に示す画面の第4行目から、アドレス帳画面の電話番号項目のデータを示す予約語「TEL」23を検出し、また同様にステップS3～S6の処理を行う。尚、ステップS5において、識別するデータの区切りは、電話番号データ25の終了を示す空白文字あるいは改行コード文字である。

【0022】一方、ステップS2において、スキャンを行うストリームデータ列が終了した場合には、ステップS7へ処理を進め、ステップS4でバッファが用意され

5

たか否かを判定する。その結果、作成されなかった場合には自動項目入力ルーチンを終了するが、作成された場合にはステップS8へ処理を進め、適正フォーマットの一時バッファに自動コピーされたアドレス帳フォーマット画面を図4に示す様に表示し、登録をするかどうかの確認を行う。登録を行う場合には、ステップS9へ処理を進め、アドレス帳フォーマットの適正項目に対応したデータとして、バッファのアドレス帳フォーマットのデータとしてコピーする。また、ステップS8において、登録を行わないと指示された場合には、バッファのコピーを行わずに終了する。

【0023】以上説明した様に、本実施例によれば、メモを取る際に、頻繁に現れるアドレス帳やスケジュール帳等の項目データを全てメモ帳モードにおいて入力する事ができ、しかも、それぞれ別なアプリケーションでのみ有効な情報も自動的にあるいは選択的に登録されることにより、有効的な活用が可能となる。

【0024】

【他の実施例】前述した実施例では、メモ帳画面という1つのアプリケーションで入力された情報が別の複数のアプリケーションの有効データとして登録されたが、この際、図5及び図6に示す様に、始めのアプリケーションのフォーマット画面である図5から自動登録された別のアプリケーションのフォーマット画面である図6への直接的な移動を行う為に、関連づけ情報を設定し、図5、図6間の関連情報への移動コマンドアイコン（この例では、「関連情報へ」40）として表示させる事で、例えば図5のメモ帳画面からこれに関連する図6のアドレス帳画面への移動あるいは逆にアドレス帳画面からこれに関連するメモ帳画面への移動がメニューキー20を押す事によって選択されるコマンド等を用いる事なく行え、それぞれのアプリケーション画面から関連情報への検索作業を大幅に簡略化する事が可能となる。

【0025】以上説明した実施例によれば、1つのアプリケーションにおいて、他の複数のアプリケーションでのみ有効に活用されるデータを入力したい場合も、それ

6

ぞれのデータ単位に予め予約された予約語を前置あるいは後置する事で、これを検出し、分類して自動登録する事が可能となり、あたかも紙の上に筆記を行う如き、連続した入力動作を行う事で、情報を有効に利用できる。

【0026】また、入力操作時に、アプリケーションの切り換え操作や関連付け操作をなくす事で、思考中断のない電子情報機器を提供できるものである。

【0027】尚、本発明は、複数の機器から構成されるシステムに適用しても、1つの機器から成る装置に適用しても良い。また、システム、あるいは装置にプログラムを供給する事によって達成される場合にも適用できる事は言うまでもない。

【0028】

【発明の効果】以上説明した様に、本発明によれば、簡単な操作で、異なるフォーマットの情報を入力する事が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例における自動項目入力ルーチンを示すフローチャートである。

20 【図2】本実施例における電子情報機器の構成を示す概略ブロック図である。

【図3】

【図4】本実施例における具体的な動作を説明する図である。

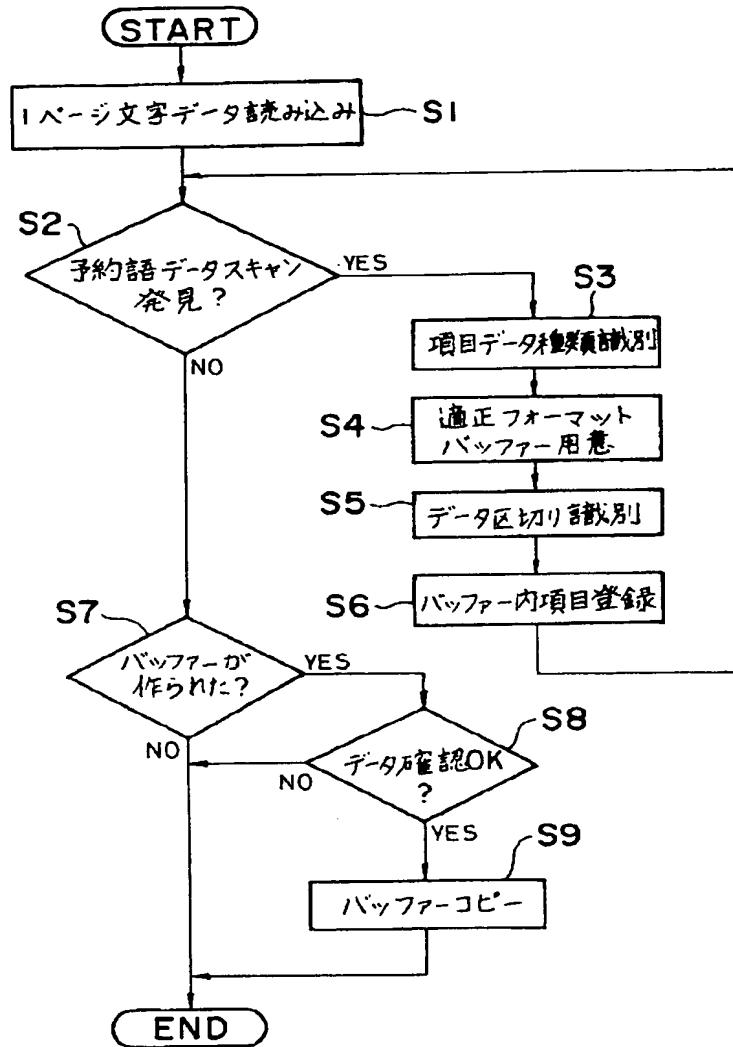
【図5】

【図6】他の実施例における具体的な動作を説明する図である。

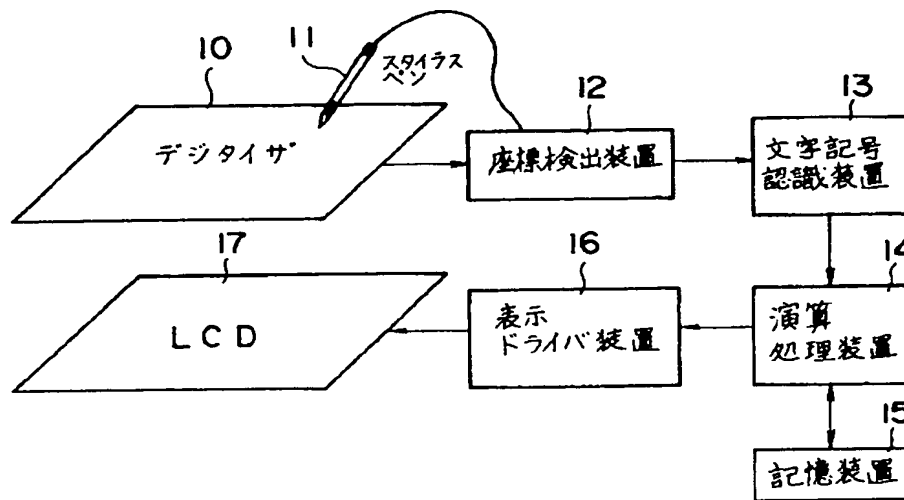
【符号の説明】

- 10 デジタイザ
- 11 スタイラスペン
- 12 座標検出装置
- 13 文字記号認識装置
- 14 演算処理装置
- 15 記憶装置
- 16 表示ドライバ装置
- 17 LCD

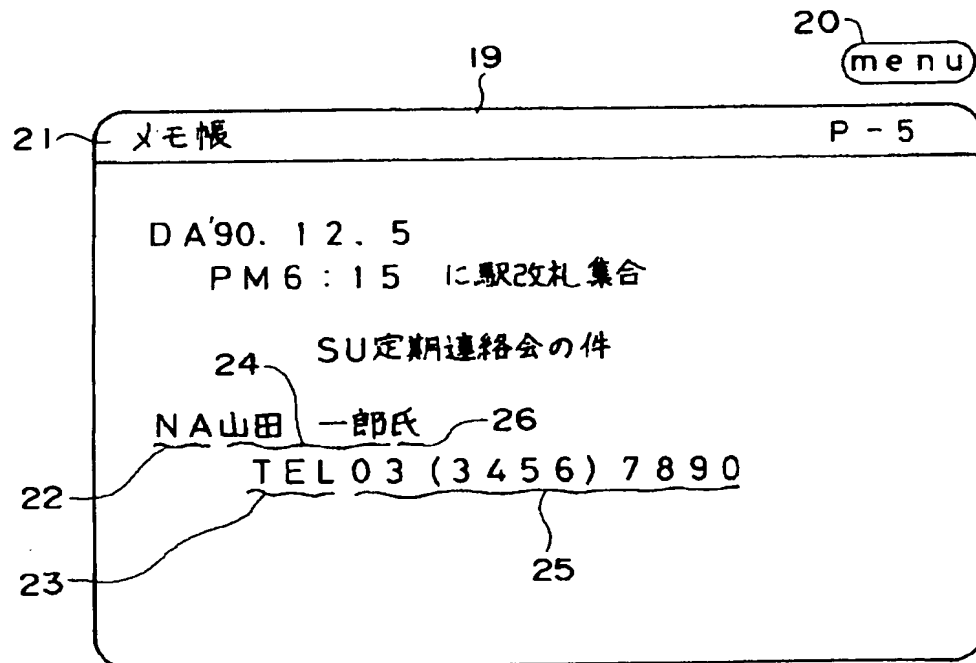
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

【図6】

【図5】

フロントページの続き

(72)発明者 巽 栄作
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内